

学校関係者評価委員会報告書

令和6年7月25日

学校法人大麻学園 四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

四国医療専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和5年度自己点検・評価報告書」に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

I. 学校関係者評価の目的

本校は、教育の一層の充実と教育水準の向上を図り、学則第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動その他の学校運営等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに、教育活動その他学校運営の状況に係る外部評価を実施することを目的とする。

II. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、本校の「令和5年度自己点検・評価報告書」を基に『文部科学省 専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施することを基本方針とする。

III. 学校関係者評価委員 [敬称略]

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博 (宇多津町長)
- ・学校と関連のある高等学校関係者
上杉 敬治 (香川県立丸亀城西高等学校 校長)
詫間 裕一 (香川県立飯山高等学校 校長)
水兼 博士 (香川県立琴平高等学校 校長)
- ・保護者代表
三谷 景子 (看護学科学生の保護者)
- ・卒業生代表
橋本 純 (鍼灸学科卒業生)
島 かおり (看護学科卒業生)
- ・業界団体の役職者
宮武 功哲 (一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会 会長)
大塚 安混 (一般社団法人香川県鍼灸師会 理事)
高橋 司 (公益社団法人香川県柔道整復師会 会長)
田岡 知代 (一般社団法人香川県理学療法士会 理事)
若林 佳樹 (一般社団法人香川県作業療法士会 理事)
富山 清江 (公益社団法人香川県看護協会 会長)

IV. 学校関係者評価委員会 議事録

・開催日時 : 令和6年7月7日(日) 13:00~14:10

・開催場所 : 四国医療専門学校 2号館 5階 501教室

・出席者

委員: 谷川俊博(議長)、上杉敬治、詫間裕一、水兼博士、三谷景子、橋本 純、島かおり、
宮武功哲、大塚安混、田岡知代、富山清江

学校役職員: 大麻正晴(学校法人大麻学園 理事長)、後藤修司(四国医療専門学校 学校長)、
大麻陽子(四国医療専門学校 副学校長)、山下久美子(四国医療専門学校 副学校長)、
青木みゆき(教務部長)、山川公彦(学務部長/進行)、襖田和敏(鍼灸マッサージ学科・
鍼灸学科 学科長)、山本幸男(柔道整復学科 学科長)、高橋謙一(理学療法学科 学科長)、
松本嘉次郎(作業療法学科 学科長)、入江和子(看護学科 教務主任)、六車輝美(看護
学科 学科長)、名越文人(教務課長)、大野幸重(学務課長/書記)

・欠席者

委員: 高橋 司、若林佳樹

・議事の経過及び結果

1) 開会

事務局より、開会を宣する旨の発言があった。

2) 理事長挨拶

理事長の大麻は、委員の皆様に対し本委員会出席に対する謝意を述べた後、学校として、昨今の専修学校を取り巻く目まぐるしい社会変化に対応しつつ、更なる教育の質の向上と改善に取り組むためにも適正な自己点検評価を実施し、より良い学校作りを目指したいと挨拶を行った。

3) 学校長挨拶

学校長の後藤は、今年創立 68 年を迎える本校も時代の変化に応じて変わっていかねばならないと述べ、忌憚のないご意見・ご提言をお願いしたいと挨拶を行った。

4) 委員会成立確認及び議長選任

事務局は、委員総数 13 名のうち 11 名の出席により本委員会が成立することを確認した。

また、「四国医療専門学校 学校関係者評価委員会規程」第 3 条第 2 項の規定に基づき、委員による互選の結果、谷川俊博委員が議長に就任することが全会一致で承認され、挨拶を述べた。

5) 報告書及び関係資料の説明

事務局は、事前に送付している「令和 5 年度自己点検・評価報告書」について、今年度より様式が変更となり、各項目の評価を点数化、更に学校全体表記は各学科の平均値にて表している等、記載事項の注意点と資料の説明を行った。

議案の審議

1. 令和 5 年度自己点検・評価について

議長の指示により、事務局は本校の「令和 5 年度自己点検・評価報告書」に基づき、教育目標と本年度の重点目標の評価や教育活動、学修成果、学生支援などについて、学校全体の概要説明を行うとともに、評価点(4~0)の根拠と課題、改善方策について詳細な説明を行った。

以上の説明を受け、議長は委員に対し質問を求めたところ、次のとおり意見・質問があり、学校は以下の回答を行った。

●委員からの質問

- ①少子化は避けられない社会の課題ではあるが、各学科の学生充足率をみると、各学科・各資格の魅力をもっとアピールすべきであり、付加価値をつけることで改善できるのではないか。
- ②授業評価で書かれている評価者の能力・スキルアップについては、自身の職場においても同様のことが課題とされており、今後学校がどのような対応をされるか教えて欲しい。

○本校からの回答

- ①全学科医療国家資格の取得ができることはアピールポイントであり、その部分は大切にしつつこれからの時代及び地域が求めるものを現段階では具体的には示せないが、令和8年度入学生に向け、全学科あげて思案中である。
- ②評価者となる教職員のスキル研修を行う予定である。また、評価者間の差が出ないように評価者が集まり、各評価のすり合わせを適宜行っている。

●委員からの質問

三豊工業高等学校跡地利用はどのようになっているのか教えて欲しい。

○本校からの回答

取得当初は、大学設置も検討したが、今は白紙の状態である。

●委員からの質問

就職について、県外就職者が増えた要因で考えられるものが何かあれば教えて欲しい。

○本校からの回答

年によって変動があるので一概には言えないが、昨年度は県外からの求人が多かったことが要因の一つと考えられる。

■委員からの提言

- ①少子化問題について、高校現場でも同じ問題を抱えている。香川県の18歳人口推移2024年は8,500人、7年後の2031年は8,100人、15年後の2039年は5,900人にまで減少する。各校が特色のある学校を目指し生き残りを模索する必要がある。
- ②昨年度の進学実績は進学が8~9割、就職は20名程 求人は多くいただくが、就職指導担当者は生徒のニーズと生徒のより良い選択につながるための指導に苦慮している。進学については選択の幅を生徒自身が狭める傾向があり、もっと視野を広く持つて欲しいと思う。今後も情報を共有しながら、進めていきたいと思っている。

2. 教育・学校運営に関する意見交換（ご意見・ご提言等）について

議長より、各委員に対し意見・提言を求めたところ、次のとおり意見等があった。

■委員からの提言

現在、子供が看護学科2年に在籍中、勉強は専門性が高いため想像していた以上に難しいようだが、学校は学生一人一人と向き合い面談を行うなど、取りこぼすことなく見ていただけていると感じており感謝している。知り合いに柔道整復学科と鍼灸学科で迷っている子がいる。馴染みのない職業のためもっと知ってもらえるようにしてはどうか。最近の高校生には SNS を使った情

報発信が有効であり、まじめな学校風景だけでなく学校行事など活気のある様子が見えるとより良くなるのではないかと。

●委員からの質問

看護学科における国家試験の合格率の低下が気になる。自己点検評価にも記載はあるが不合格者に対してどのようなツールやアプリを活用し国試対策を行っているのか教えて欲しい。

○本校からの回答

卒業後、聴講生として受け入れを行っている。学校に来られない人については、ネット環境を利用し鍼灸学科・鍼灸マッサージ学科と柔道整復学科は e459、理学療法学科と作業療法学科はスマコク、看護学科は free アプリを用いた国試対策を行うことで、資格取得までフォローしている。

■委員からの提言

コロナ禍以降、コミュニケーションが希薄になっている中で、我々医療人は人との関わりが無くならない職業であり、自分自身この職業に就いて本当に良かったと感じている。学生に伝えたいことは、人とのつながりを大切にすることで会話が増え、質問もしやすくなり、結果学力向上にも繋がるのではないかと。ふれあいを大切にしたい。

●委員からの質問

情報過多の現代において、必要な情報が必要な人に伝わるにはどうすれば良いか、高校現場においても同じ悩みを抱えている。以下の質問について教えて欲しい。

①柔道整復師、スポーツドクター、トレーナー等、名称や資格の違いを聞かれても答えに困ることがある。特に名称が柔道整復師となると、業務内容と資格の名称の違いが過ぎて、高校生の興味から外れてしまうのではないかと。工夫はできないかと。

②資格取得に興味のある人は多いと思うので、短期で学べる資格の学科を新設し、社会人の間口を広げてはどうか。

○本校からの回答

①柔術の殺法と活法に端を発した資格のため、このような名称になっている。国家資格のため、名称変更はできないが、学科の名称を分かり易くすることは可能であるため、今後検討していくようにしたい。

②現存の学科については、国家試験の受験資格要件に修業年限が定められているため、短縮するわけにはいかないが、今後社会人を対象とした学科の新設は、検討していくようにしたい。

●委員からの質問

高等学校卒業後、大学進学する学生の約 8 割が明確な目標を持たないまま進学していると聞く、専修学校であっても、入学後 2 年次 3 年次でコースを分ける形ができれば、もっと多くの学生が気軽に入学できるのではないかと。

○本校からの回答

学生の希望としてはあるかもしれないが、実際は国家試験の受験資格に係る履修科目等の問題で一部を除き、進路変更としてしか扱えず、再入学をしてもらっている。

●委員からの質問

現場の声として早期離職が問題になっている。コロナにより多種多様な実習ができないまま就職する学生が多くなり、自身の向き不向きを経験せず就職を決めているように思う。学校として何か取り組みをされていれば教えて欲しい。

○本校からの回答

確かに就職先の幅は広がっており、大学の理学療法学科卒業者は医療専門書の出版社や医療機器メーカーの営業職など、臨床から離れたところへの就職者も多いと聞く。本校はコロナ禍により受入れの制限を受けた実習先もあったが、現在も臨床に重きを置いた教育を行っており、学生の適性を見ながら就職指導を行うなど、今後も離職率の低減に努めていきたいと考えている。

3. 閉会

議長は、議題が全て終了したことを報告し、本委員会の閉会を宣した。

【学校側の対応】

各委員の皆様から賜りました貴重なご意見・ご提言を参考にさせていただき、今後、再度点検のうえ、教育活動・学修成果・学生支援の向上、教育環境の整備、国家試験対策、就職支援及び学校運営等の改善などを図り、より良い学校作りを目指して、教職員一同、日々努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

以上